

令和7(2025)年度

名桜大学大学院 国際文化研究科
国際文化システム専攻 (修士課程)

学 生 募 集 要 項

国際文化領域
国際観光産業領域

〔一般選抜〕
〔社会人特別選抜〕
〔外国人留学生特別選抜〕



目 次

大学院 国際文化研究科（修士課程）アドミッション・ポリシー	1
令和 7(2025)年度大学院国際文化研究科（修士課程）入試日程	2
一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜 学生募集要項	3
学費等納入金	12
教員の研究概要	14
授業科目の内容等	16

諸用紙綴り 添付

【出願資格認定申請書類】

- | | |
|------------------|------------------|
| ① 出願資格認定申請書（様式1） | ② 出 願 理 由 書（様式2） |
| ③ 経 歴 書（様式3） | ④ 研究業績報告書（様式4） |
| ⑤ 研究経過報告書（様式5） | |

【出願書類等】

- | | |
|-------------------|--------------|
| ① 研究計画書（様式6） | ② 業績報告書（様式7） |
| ③ 受験承諾書（様式8） | ④ 相談申請書（様式9） |
| ⑤ 入学志願票、受験票、振込依頼書 | ⑥ 願書送付用封筒 |

個人情報の取扱について

- (1) 本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報は、次のとおり利用又は提供しますので、あらかじめご了承ください。
- ① 入学者選抜、合格発表及び入学手続、入学前後の教育活動に係る業務で利用します。
 - ② 入学手続者及びその保証人等の住所・氏名等につき、学生支援関係業務（健康診断、授業料減免措置、奨学金採用、就職支援、学生保険加入等）、教務関係業務（学籍管理、修学指導、成績管理等）、納付金関係業務（入学金、授業料徴収等）で利用します。
- (2) 出願書類・入学手続書類等の不備等がある場合、その訂正・補完を速やかに行っていただくため、本学を受験されること及び出願書類に不備等があることを、保証人等に通知する場合があります。
- (3) 本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報は、上記及び個人情報の保護に関する法律 第18条、第27条及び第28条に規定されている場合を除き、本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

入学試験についての問い合わせ先
〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1

名桜大学 教務部 入試・広報課

TEL 0980-51-1056 FAX 0980-54-2429

大学院 国際文化研究科（修士課程） アドミッション・ポリシー

国際文化研究科（修士課程）の教育目標を達成するために、本研究科（修士課程）に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 強い研究意欲を有し、何事にも主体的に取り組む姿勢を持っていること。
2. 専門分野の基本的な研究手法を活用し、現代社会の課題を正確に理解・分析したうえで、その結果を様々な方法で創造的に表現できること。
3. 本研究科（修士課程）の教育課程で学ぶために必要な基本的知識・技能を有すること。

なお、各領域では、次のような人材を求める。

【国際文化領域】

グローバル化が進展する現代社会を背景にして、国内外の諸問題に関心を寄せ、言語、歴史、文化、政治、国際関係などの視点から究明し、その解決策を提言する政策立案者、研究者、高度専門職業人を目指す人材

【国際観光産業領域】

グローバル化が進展する現代社会を背景とした地域の諸問題に関心を寄せ、観光、経営、経済、情報、文化などの知識と高い研究意欲を有する人材

令和 7(2025)年度大学院国際文化研究科（修士課程）入試日程

10 月試験
令和 7(2025)年
4 月入学

選 抜 区 分
一 般 選 抜
社 会 人 特 別 選 抜
外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜

願書受付期間	令和 6(2024) 年 9 月 9 日(月)～9 月 13 日(金) (消印有効)
試験日	令和 6(2024) 年 10 月 12 日(土) ※追試験(詳細 9 ページ)
試験会場	■本学試験場： 名桜大学
合格発表	令和 6(2024) 年 10 月 25 日(金)
入学手続期間	令和 6(2024) 年 10 月 25 日(金)～11 月 1 日(金)

2 月試験
令和 7(2025)年
4 月入学

選 抜 区 分
一 般 選 抜
社 会 人 特 別 選 抜
外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜

願書受付期間	令和 7(2025)年 1 月 14 日(火)～1 月 17 日(金) (消印有効)
試験日	令和 7(2025)年 2 月 1 日(土) ※追試験(詳細 9 ページ)
試験会場	■本学試験場： 名桜大学
合格発表	令和 7(2025)年 2 月 21 日(金) 15 : 00
入学手続期間	令和 7(2025)年 2 月 21 日(金)～2 月 28 日(金)

令和 7(2025)年度 10 月試験・2 月試験
名桜大学大学院 国際文化研究科（修士課程）
学生募集要項（一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜）

1. 募集人員

専攻・領域	選抜区分	募集人員
国際文化システム専攻 国際文化領域 国際観光産業領域	一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜	6 人

※募集人員は、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜の合計数、かつ、10 月試験と 2 月試験の合計数。

2. 出願資格

【一般選抜】

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法第 83 条（昭和 22 年法律第 26 号）に定める大学を卒業した者又は令和 7(2025)年 3 月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により、学士の学位を授与された者又は令和 7(2025)年 3 月 31 日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者又は令和 7(2025)年 3 月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者又は令和 7(2025)年 3 月修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育法における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は令和 7(2025)年 3 月までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）
- (9) 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により大学院に入学した者であって、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和 7(2025)年 3 月 31 日までに 22 歳に達する者
- (11) 大学に 3 年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと委員会が認める者

※ (9)から(11)の資格で出願しようとする者は、出願資格の認定のための審査を経る必要があるため、次項を確認すること。

【社会人特別選抜】

一般選抜に示す出願資格のいずれかの資格を有する者で、本研究科入学までに2年以上の社会経験を有する者とし、有職者に限らない。

【外国人留学生特別選抜】

外国人留学生特別選抜の出願資格は、(1) から (4) のすべてに該当し、かつ (5) 又は (6) のいずれかに該当する者。

- (1) 日本の国籍を有しない者
- (2) 一般選抜に示す出願資格のいずれかに該当する者
- (3) 「出入国管理及び難民認定法」における「留学」の在留資格を有する者又は入学後に在留資格を「留学」に変更できる者
- (4) 修学に必要な日本語の能力を有する者
- (5) 独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験の「日本語」の受験について、次のいずれかに該当する者。

ア：「2023年度（令和5年度）日本留学試験（第1回）（6月実施）」を受験済みの者

イ：「2023年度（令和5年度）日本留学試験（第2回）（11月実施）」を受験済みの者

ウ：「2024年度（令和6年度）日本留学試験（第1回）（6月実施）」を受験済みの者

エ：「2024年度（令和6年度）日本留学試験（第2回）（11月実施）」を受験済みの者

※日本留学試験の「日本語」の得点が250点以上を取得した者を対象に合否判定を行う。

詳しくは「6. 入学者選抜方法」を確認すること。

- (6) 独立行政法人国際交流基金と公益財団法人日本国際教育支援協会が共催で実施する日本語能力試験N2以上に合格した者。

※ 一般選抜に示す(9)から(11)の資格で出願しようとする者は、出願資格の認定のための審査を経る必要があるため、次項を確認すること。

3. 出願資格の認定

出願資格 一般選抜(9)～(11)※に該当する者は、出願資格の事前審査を行います。

※外国人留学生特別選抜及び社会人特別選抜の志願者含む

事前に演習指導を希望する指導教員（14～15 ページ参照）と面談し、下表のとおり必要書類を下記「(4)出願資格認定申請書類提出先」へ提出し、出願資格の認定を受けた後、出願してください。

試験区分	出願資格認定申請期間	出願資格認定結果
10月 試験	令和6(2024)年 7月29日(月)～8月2日(金)(必着)	令和6(2024)年 8月16日(金)
2月 試験	令和6(2024)年 11月22日(金)～11月28日(木)(必着)	令和6(2024)年 12月20日(金)

(1) 提出書類

1	出願資格認定申請書（本学所定様式）様式 1
2	出願理由書（本学所定様式）様式 2
3	経歴書（本学所定様式）様式 3
4	最終学校の成績証明書
5	最終学校の卒業（修了）証明書または在籍証明書
6	研究業績報告書（本学所定様式）様式 4
7	研究経過報告書（本学所定様式）様式 5
8	レターパックライト 「お届け先 (To)」に志願者の住所・氏名・郵便番号・電話番号を記入し、願書送付用封筒に同封してください。※ 折り曲げて同封してもかまいません。

(2) 認定結果の通知

10月試験：令和6(2024)年8月16日（金）に郵送により通知します

2月試験：令和6(2024)年12月20日（金）に郵送により通知します

(3) 出願資格に疑義のある者は、下記に問い合わせてください。

出願資格認定申請書類提出先

名桜大学 教務部 入試・広報課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1 TEL.0980-51-1056

※申請書類を持参する場合は、平日の午前9時から午後5時までの受付とします。

4. 希望する研究指導教員との出願前相談

志願者は、出願前に、修士課程において研究指導を希望する教員（14～15 ページ）と必ず連絡を取り、入学後の研究計画等について相談してください。

なお、前項「3. 出願資格の認定」の際に希望する指導教員と面談した志願者も、出願前相談を行ってください。

《出願前相談期間》

10月試験：令和6(2024)年8月19日（月）～ 8月30日（金）

2月試験：令和6(2024)年12月12日（木）～12月27日（金）

※相談日を大学から指定する場合があります。

相談申込先：名桜大学 教務部 入試・広報課 TEL：0980-51-1056

5. 出願手続

(1) 出願書類

入学志願者は、次に掲げる書類を「直接持参」するか、または「簡易書留・速達」により、出願期間内に提出してください

提出書類	一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜
入学志願票、受験票（所定用紙）	●	●	●
成績証明書	●	●	●※4
卒業（見込）証明書	●	●	●※4
研究計画書（様式6） ※1	●	●	●
受験票送付用レターパックライト ※2	●	●	●
業績報告書（様式7）		●	
受験承諾書（様式8）※3		●	
日本語能力試験の認定結果または日本留学試験受験票の写し			●※5
在留カードまたはパスポートの写し			●

※1 志望理由を含め、研究テーマについて、所定用紙に記入すること。外国人留学生特別選抜の出願者は、英語での記入可能。

※2 レターパックライトを購入のうえ、「お届け先（To）」に志願者の住所・氏名・郵便番号・電話番号を記入し、願書送付用封筒に同封してください。※ 折り曲げて同封してもかまいません。

※3 在職のまま、本学大学院に入学しようとする者のみ所定様式にて提出。

※4 成績証明書及び卒業証明書は、日本語または英語で出身校が発行したものを提出すること。

※5 「独立行政法人国際交流基金と公益財団法人日本国際教育支援協会（JEES）が共催する日本語能力試験 N2 以上の認定結果及び成績に関する証明書」又は「日本留学試験成績に関する証明書（写し可）」

(2) 入学検定料 30,000 円

本学所定の振込依頼書（入学志願票と一連になっています）にて、次の金融機関へ振り込んでください。

琉 球 銀 行	名 護 支 店（ 普 ）	0 8 2 0 8 0 0
沖 縄 銀 行	名 護 支 店（ 普 ）	1 6 4 2 5 8 7
沖 縄 海 邦 銀 行	やんばる支店（普）	0 0 5 9 7 1 4
コ ザ 信 用 金 庫	名 護 支 店（ 普 ）	0 2 1 0 5 7 9
沖縄県農業協同組合	名 護 支 店（ 普 ）	0 0 3 0 6 0 8

(3) 願書受付期間

10月試験： 令和6(2024)年 9月 9日(月)～9月 13日(金) (消印有効)

2月試験： 令和7(2025)年 1月 14日(火)～1月 17日(金) (消印有効)

(4) 出願書類提出先

名桜大学 教務部 入試・広報課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1 TEL.0980-51-1056

※出願書類を持参する場合は、平日の午前9時から午後5時までの受付とします。

(5) 出願上の諸注意

- ① 成績証明書、卒業（見込）証明書は厳封のまま提出すること
- ② 提出した出願書類は返還しません。また、納入した入学検定料は、次の場合を除き、理由の如何に関わらず返還できません。
 - ア：出願書類を提出しないまま願書受付期間が終了した場合
 - イ：書類不備等により出願書類が受理されなかった場合
 - ウ：誤って入学検定料を二重に支払った場合※入学検定料返還に係る手続き（返還請求）については、電話にてお問合せください。
※入学検定料返還については、支払われた入学検定料のうち、振込手数料等を差し引いて、返還請求に基づき返還します。
- ③ 提出書類に虚偽の記載があった場合には、合格発表後においても合格及び入学許可を取り消すことがあります。

(6) 受験および就学上の支援を要する者の相談

受験上特別な措置及び就学上特別な配慮を必要とする者は、下記の期日までに「相談申請書（様式9）」を本学入試・広報課に提出し、相談してください。

10月試験：令和6(2024)年7月22日(月)～8月2日(金) (必着)

2月試験：令和6(2024)年11月13日(水)～11月27日(水) (必着)

窓口受付取扱時間 9:00～17:00（土曜日、日曜日及び国民の祝日は除く）

6. 入学者選抜方法

一般選抜は、英語、小論文、面接及び出願書類の内容を総合的に判定して行います。

社会人選抜及び外国人留学生特別選抜は、小論文、面接及び出願書類の内容を総合的に判定して行います。

なお、外国人留学生特別選抜は、日本留学試験「日本語」250点以上、又は日本語能力試験N2以上（N1が望ましい）の成績を有する者を、合否判定の対象者とします。

一般選抜

試験科目等	配点	備考
英 語	100 点	大学が用意する辞書(書籍版)のみ使用してよい
小 論 文	100 点	国際文化、国際観光産業の2領域に関する設問の中から、志願する領域の問題について日本語で答えること
面 接	100 点	研究計画書等の内容に関する質疑応答を含めた個人面接を行う。
合 計	300 点	

社会人選抜及び外国人留学生特別選抜

試験科目等	配点	備考
小 論 文	150 点	国際文化、国際観光産業の2領域に関する設問の中から、志願する領域の問題について日本語で答えること
面 接	150 点	研究計画書等の内容に関する質疑応答を含めた個人面接を行う。
合 計	300 点	

7. 試験日程・試験科目等及び試験場等

(1) 試験日程及び試験科目等

試験区分	試験日	試験時間	試験科目等
10月 試験	令和6(2024)年10月12日(土) ※追試験(詳細9ページ)	9:30~11:00	英語
		11:20~12:50	小論文
		14:00~	面接(提出した研究計画書に基づく)
2月 試験	令和7(2025)年2月1日(土) ※追試験(詳細9ページ)	9:30~11:00	英語
		11:20~12:50	小論文
		14:00~	面接(提出した研究計画書に基づく)

(2) 試験会場

名桜大学内 ※試験室は多目的ホール手前のスペースに掲示します。

(3) 試験場案内

名護バスターミナルからタクシー利用約7分

8. 受験上の諸注意

- (1) 試験当日は、一般選抜の受験者は9時15分までに試験室に入室してください。社会人選抜及び外国人留学生特別選抜の受験者は、11時10分までに試験室に入室してください。なお、試験開始後30分を経過すると受験できません。
- (2) 受験票は必ず持参し、机の上に提示してください(忘れた場合は、試験監督にその旨申し出てください)。
- (3) 筆記用具は、鉛筆(キャップ含む)、消しゴム及び鉛筆削りとします。なお、試験場に時計を持ち込む場合は、時計機能だけのものが利用できます。
- (4) 携帯電話・スマートフォン、ウェアラブル端末等の使用を禁止し、統計機能としても使用を認めません(試験前に電源を切ること)。
- (5) 受験中に質問がある場合は、試験監督に知らせ、指示に従ってください。
- (6) 受験者入室終了時刻から試験終了までは、試験室から退室できません。体調不良、トイレ等により、やむを得ず退席を希望する場合には、挙手をして試験監督に知らせ指示に従ってください。
- (7) 答案は、解答の如何にかかわらず必ず提出してください。
- (8) 不正行為が確認された場合は、受験は無効となります。
- (9) 面接試験では、順番により待機時間が長くなりますが、ご理解ください。
- (10) 受験票は、入学手続書類の交付を受けるまで大切に保管してください。

9. 追試験

追試験は、疾病等により受験予定だった試験を受験できなかった場合の配慮として実施します。原則として、受験者からの申請及び証明できる書類（診断書等）の提出により追試験の対象とします。該当する場合は、ご相談ください。

(1) 追試験の対象者

次の①及び②を追試験の対象者とします。

- ①疾病（インフルエンザ・ノロウイルス・新型コロナウイルス・風邪等を含む）・負傷により試験を受験できない者で、それを証明する医師の診断書の提出があった場合
- ②その他やむを得ない事由（両親等の危篤・死亡、自宅の火災、自然災害、保健所等から健康観察や外出自粛を要請されている等）により試験を受験できない者

(2) 追試験の試験期日

10月試験：令和6(2024)年10月19日(土)

2月試験：令和7(2025)年2月15日(土)

試験時間等は対象者確定後、連絡します。

(3) 試験内容

本試験とは異なる試験問題を用意し実施します。

(4) 追試験の受験申請方法等

11ページの別表「追試験受験申請の受付及び許可手続」のとおり申請してください。

(5) 追試験の追試験は原則として実施しません。

10. 合格発表及び入学手続書類の交付

合格結果の通知を大学ウェブサイト上にて行います。合格者は、入学手続システムで手続を行っていただきます。(注) 電話等による合格結果の問い合わせには一切応じません。

10月試験：令和6(2024)年10月25日(金) 15:00

2月試験：令和7(2025)年2月21日(金) 15:00

11. 入学手続

入学手続期間

10月試験：令和6(2024)年10月25日(金)～11月1日(金)

2月試験：令和7(2025)年2月21日(金)～2月28日(金)

12. 社会人学生の履修の方法

(1) 大学院設置基準第14条の特例について

入学後も社会人として在職のまま就学する者に対し、社会人として職務の遂行と本研究科での履修が両立するよう大学院設置基準第14条の特例（大学院の課程においては、教育上特例の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間または時期において授業または研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる）を実施し、授業科目の夜間、土曜日・日曜日の開講により就学上の便宜を図ります。また、研究指導は、昼間に加えて夜間、土曜日・日曜日、夏季・冬季・春季の休業期間等に行います。履修計画については、指導教員の指導のもとに作成することになります。

(2) 長期履修制度について

「職業を有している等」の事情のある学生を対象として、標準の修業年限2年を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を履修して修了することができる制度があります。この制度による授業料は、標準の修業年限2年間の総額を計画的に履修することを認められた一定期間の年数で分割して納めることとなります。

長期履修期間は標準修業年限に1年を加えた年数を超えることはできません。長期履修制度を利用したい学生は、入学後1年以内に申請することとなります。

出願に関する問い合わせ先

名桜大学 教務部 入試・広報課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1

T E L : 0980-51-1056

F A X : 0980-54-2429

E-mail : nyushisodan@meio-u.ac.jp

別表 「追試験受験申請の受付及び許可手続」

※対象：「②疾病等により受験予定だった試験を受験できなかった場合」の該当者

申請受付時間	・本試験前日 9:00 ~ 17:00 ・本試験日当日 8:30 ~ 17:00	
受験者の申請方法	追試験の受験を申請する場合は、入試・広報課に 追試験受験申請する旨を電話で連絡 します。 <hr/> A：申請受付時間内に本人又は代理人が、入試・広報課に大学発行の「受験票」（注1）と「診断書（治療期間が明記されたもの）」（注2）もしくは「申請事由を証明できる書類（注3）」を持参し、「追試験受験申請書」により申請してください。 ※持参する場合は、事前にお問い合わせください。	
申請事由の審査	【申請方法Aの場合】 「診断書（治療期間が明記されたもの）」（注2）もしくは「申請事由を証明できる書類（注3）」により審査します。	【申請方法Bの場合】 大学側で、受験者本人の氏名等受験票の記載事項及び申請事由等を電話で聴取、「追試験受験申請の確認メモ」に記入し、直ちに入学志願者名簿等により、受験者であることを確認した後、 本人又は代理人に受診状況及び治療期間、その他事由の状況を確認し、審査 します。 ※「診断書（治療期間が明記されたもの）」（注2）もしくは「申請事由を証明できる書類（注3）」の提出を求める（下記のとおり）。 この場合、申請事由等は「追試験受験申請の確認メモ」に基づくため、「追試験受験申請書」の提出は必要ありません。
受験許可単位	筆記試験（英語、小論文）、面接	
追試験受験者の登録及び受験許可書の交付	【申請方法Aの場合】 審査結果に基づき、「追試験受験許可書」等を本人又は代理人に交付します。	【申請方法Bの場合】 本人又は代理人が「受験票」と「診断書（治療期間が明記されたもの）」、もしくは「申請事由を証明できる書類（注3）」を 当該試験日翌平日の正午まで に、次のア、イのいずれかの方法で入試・広報課に提出した後、審査結果に基づき、「追試験受験許可書」等を交付します。（期日までの提出が困難な場合はご相談ください） ア：FAX送信 イ：撮影画像を電子メールで送信 なお、これらの書類は、後日原本等を提出（持参/郵送）することを原則とします。

（注1）「受験票」は本学でコピーした後、本人又は代理人に返却します。

（注2）診断書の治療期間が追試験実施日にわたっている場合には、本人又は代理人に医師の同意があることを確認した上で追試験の受験を許可します。

（注3）申請事由を証明できる書類が発行されない、時間を要する等の場合、ご相談ください。

学費等納入金

合格者に対しては「合格通知書」と併せて「入学手続書類等」を送付します。所定の期間までに入学手続と学費等の納入を行い、提出書類は本学入試・広報課へ郵送又は窓口へ提出してください。

入学手続期間については、2 ページで確認してください。

1. 学費等納入金

国際文化研究科			国際文化システム専攻（修士課程）	
			地域内	地域外
学 費	入学金		125,000 円	250,000 円
	授業料	前学期	267,900 円	267,900 円
		後学期	267,900 円	267,900 円
諸経費	後援会費	入学手続時	20,000 円	20,000 円
	学生教育研究・ 災害傷害保険	入学手続時	1,750 円	1,750 円
	学研災付帯 賠償責任保険	入学手続時	680 円	680 円
合 計		初年度納入総額	683,230 円	808,230 円
初年度納入総額内訳		入学手続時納入金	415,330 円	540,330 円
		後学期納入金	267,900 円	267,900 円

※学研災付帯賠償責任保険については、希望者のみ必要に応じ随時加入できます。

※諸経費は、入学手続時に2年間分を納入します。

2. 地域内・地域外の入学金について

入学金については、志願票に記載されている事項に基づき、以下のとおり取り扱うこととなります。

(1) 「地域内」とは以下の者のことを指し、入学金が「125,000 円」となります。

地域内に該当する者とは次のいずれかに該当するものをいう。

- ①入学する者の卒業した出身高等学校が沖縄県北部 12 市町村に所在していること。
- ②入学する者の住所が沖縄県北部 12 市町村にあり、令和 6(2024)年 3 月 31 日時点で既に 1 年以上継続して在住していること。*
- ③入学する者の保護者、配偶者又は一親等の親族の住所が沖縄県北部 12 市町村にあり、令和 6(2024)年 3 月 31 日時点で既に 1 年以上継続して在住していること。

< 沖縄県北部 12 市町村 >

沖縄県の名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村のことを指します。

(2) 上記①～③以外の者は、「地域外」となり、入学金が「250,000 円」となります。

(3) 上記の(1)に該当する場合は、入学手続時に以下のものを提出していただきます。

入学金に変更が生じた場合は、入学金の追加納入請求又は入学金の一部返還の措置を取ります。

入学金適用区分	摘要	入学金確定に係る書類 (入学手続き時に提出)	備考
地域内①	入学する者の卒業した出身高等学校が沖縄県北部 12 市町村に所在していること。	【本学以外の大学卒業者】 卒業した高等学校の卒業証書の写しを提出	■本学卒業者は提出する書類はありません。
地域内②	入学する者の住所が沖縄県北部 12 市町村にあり、令和 6(2024)年 3 月 31 日時点で既に 1 年以上継続して在住していること。	住民票抄本	■入学する者が 1 年以上継続して在住していることを確認するため、左記の書類を提出してください。その他の情報(本籍、住民票コード、マイナンバー等)は必要ありません。
地域内③	入学する者の保護者、配偶者又は一親等の親族の住所が沖縄県北部 12 市町村にあり、令和 6(2024)年 3 月 31 日時点で既に 1 年以上継続して在住していること。	【ア・イのいずれかを提出】 ア：住民票謄本 イ：住民票抄本と戸籍謄本	■保護者、配偶者又は一親等の親族と同一世帯を成している場合は、続柄を確認するため、 <u>左記ア</u> の書類を提出してください。 ■保護者、配偶者又は一親等の親族が 1 年以上継続して在住していること、続柄を確認するため、 <u>左記イ</u> の書類を提出してください。 なお、その他の情報(本籍、住民票コード、マイナンバー等)は必要ありません。
地域外	上記に該当しない者	提出の必要はありません。	

(4) 本学卒業生の入学金について

本学卒業生の入学金は、大学院学則第 44 条（入学金及び授業料等）の規定に基づき、「地域内」の半額とします。

3. 外国人留学生の入学金及び授業料について

外国人留学生の入学金及び授業料は、本学の規程に基づき以下のとおり取り扱うことになります。

- (1) 「留学」の在留資格により入国し、外国人留学生として入学する場合の入学金は、「地域外」の半額(125,000 円)となります。
- (2) 外国人留学生は、入学年度において、一律に授業料の半額を減免することができます。授業料減免は、入学年次の「前学期」から適用されます。

4. 学費等納入金の納入方法

学費等納入金は、指定の振込用紙（合格通知書に同封）により、期限までに納入してください。

5. 学費等納入金の返還について

学費等納入金を納入した者が、令和 7(2025)年 3 月 21 日(金)までに本学への入学を辞退した場合は、入学金を除く学費及び諸経費を返還します。学費返還手続については、合格通知書と同封の入学手続要項に綴じられた「入学辞退届」と「学費返還願」の提出が必要となります。

教員の研究概要

※は演習指導(研究指導)が可能な教員

★は令和8(2026)年3月、☆は令和9(2027)年3月に退職予定となります。その他にも異動により、変更になる場合があります。

領域	専門分野	職名	教 員	研 究 課 題
国 際 文 化	国際関係論 対外政策論	教授 ※	高嶺 司 (TAKAMINE, Tsukasa) e-mail t.takamine@meio-u.ac.jp	◇対ベトナム政府開発援助政策 ◇アジア太平洋の国際関係 ◇日本の外交安全保障政策 ◇オセアニア地域への沖縄県人の移動
	マレーシア近現代史	教授 ※	坪井 祐司 (TSUBOI, Yuji) e-mail y.tsuboi@meio-u.ac.jp	◇東南アジアのマレー・ムスリムの社会史 ◇マレーシアの脱植民地化の歴史 ◇20世紀中葉のマレー語の出版活動
	20世紀アメリカ文学	上級准教授 ※	メーガン クックルマン (KUCKELMAN, Meghan) e-mail m.kuckelman@meio-u.ac.jp	◇American Modernism and Post Modernism ◇Language Poetry ◇Phenomenology ◇Comics
	日本中世文学	教授 ※	小番 達 (KOTSUGAI, Toru) e-mail t.kotsugai@meio-u.ac.jp	◇平家物語の成立 ◇延慶本平家物語の思想
	日本近現代文学研究	教授 ※	小嶋 洋輔 (KOJIMA, Yousuke) e-mail y.kojima@meio-u.ac.jp	◇高度経済成長期の文学 ◇戦後メディアの編成史—中間小説という概念から ◇文学における「救い」の位置
	琉球文学・文化	教授 ※	照屋 理 (TERUYA, Makoto) e-mail m.teruya@meio-u.ac.jp	◇琉球文化圏における口承文化 ◇琉球文化圏における筆録文芸
	日本史 琉球・沖縄史	上級准教授 ※	屋良 健一郎 (YARA, Kenichiro) e-mail k.yara@meio-u.ac.jp	◇対外関係史 ◇琉球王国の日本文化受容 ◇琉球和歌史・沖縄短歌史
	教育学	教授 ※	嘉納 英明 (KANO, Hideaki) e-mail kano@meio-u.ac.jp	◇沖縄の戦後教育史 ◇地域社会教育論 ◇子どもの貧困研究
	英語教育	教授 ※	★渡慶次 正則 (TOKESHI, Masanori) e-mail m.tokeshi@meio-u.ac.jp	◇リスニング・ストラテジー ◇英語教育カリキュラム ◇英語コミュニケーション ◇ ESP ◇小学校英語教育
	文化人類学	准教授	上原 なつき (UEHARA, Natsuki) e-mail n.uehara@meio-u.ac.jp	◇アンデス先住民の文化・宗教 ◇インカ帝国の社会・宗教 ◇ラテンアメリカの沖縄移民
	応用言語学と TESOL	教授	ノーマン フィーウェル (FEWELL, Norman) e-mail norman@meio-u.ac.jp	◇言語学習者の戦略 ◇協働学習 ◇コンピュータ支援言語学習
	言語学 記述言語学 琉球諸語	准教授	麻生 玲子 (ASO, Reiko) e-mail r.aso@meio-u.ac.jp	◇琉球語諸方言の言語研究 ◇琉球語諸方言を対象とした記述言語学の研究手法に関する メタ研究
	言語学 英語学 意味論 語用論	准教授	林 智昭 (HAYASHI, Tomoaki) e-mail t.hayashi@meio-u.ac.jp	◇言語変化(文法化、語彙化、構文化) ◇英語学の英語教育への応用

教員の研究概要

※は演習指導(研究指導)が可能な教員

★は令和8(2026)年3月に、☆は令和9(2027)年3月に退職予定となります。その他にも異動により、変更になる場合があります。

領域	専門分野	職名	教員	研究課題
国際観光産業	エコツーリズム生物学	教授※	新垣 裕治 (ARAKAKI, Yuji) e-mail y.arakaki@meio-u.ac.jp	◇地域振興と環境保全のあり方 ◇移入種研究(マングローブ、マングース等)
	政策科学観光研究	教授※	大谷 健太郎 (OTANI, Kentaro) e-mail otani@meio-u.ac.jp	◇地域における望ましい観光のあり方 ◇観光政策評価、観光事業と観光振興 ◇社会的共通資本整備の評価
	社会心理学	教授※	木村 堅一 (KIMURA, Kenichi) e-mail k.kimura@meio-u.ac.jp	◇説得と態度変容 ◇対人コミュニケーション ◇健康関連行動
	集団力学	教授※	金城 亮 (KINJO, Akira) e-mail a.kinjo@meio-u.ac.jp	◇リーダーシップ認知 ◇組織風土 ◇消費者行動
	財務会計	教授※	仲尾次 洋子 (NAKAOJI, Yoko) e-mail y.nakaoji@meio-u.ac.jp	◇会計制度の国際比較
	経営戦略	教授※	林 優子 (HAYASHI, Yuko) e-mail y.hayashi@meio-u.ac.jp	◇都市における商業・流通のありかた ◇地域ブランドと地域振興
	経済学	教授※	☆宮平 栄治 (MIYAHIRA, Shigeharu) e-mail s.miyahira@meio-u.ac.jp	◇経済政策と政策変数と効果変数 ◇効果波及経路の理論化 ◇経済成長・経済発展および分配政策
	音声対話 ヒューマン・マシン インタフェース	教授※	中里 収 (NAKAZATO, Shu) e-mail s.nakazato@meio-u.ac.jp	◇音声対話の認知モデル ◇音声対話コーパスの作成 ◇ヒューマン・マシンインタフェースの設計
	環境科学	教授	★田代 豊 (TASHIRO, Yutaka) e-mail tashiro@meio-u.ac.jp	◇人為活動と自然環境との間の望ましい関係のあり方 ◇南西諸島における農業の環境に対する影響 ◇南西諸島における微量有害物質
	ホテル経営論	教授	東恩納 盛雄 (HIGASHIONNA, Morio) e-mail m.higashionna@meio-u.ac.jp	◇サービス産業(ホテル等)における従業員満足と福利厚生
	文化人類学	上級准教授	許 点淑 (HEO, Jeomsug) e-mail heo@meio-u.ac.jp	◇在日韓国・朝鮮人社会におけるアイデンティティの変容 ◇在韓華僑社会の若い世代のアイデンティティをめぐる葛藤 ◇文化の観光商品化 ◇沖縄におけるダークツーリズムの可能性 ◇沖縄戦と朝鮮人
	観光者心理 観光行動	准教授	上原 明 (UEHARA, Akira) e-mail a.uehara@meio-u.ac.jp	◇人間-環境系 ◇商業空間における購買行動 ◇観光地イメージ Destination image
	憲法及び行政法 憲法的 刑事手続	教授	大城 渡 (OSHIRO, Wataru) e-mail w.oshiro@meio-u.ac.jp	◇直接民主主義と司法審査 ◇不発弾処理行政の構造と法的課題 ◇障害者あるいは同性愛者の人権 ◇大学教員任期制と学問の自由・大学の自治 ◇“国家の憲法”と“自治体の憲法”
	経済史	上級准教授	☆宮城 敏郎 (MIYAGI, Toshiro) e-mail t.miyagi@meio-u.ac.jp	◇大衆消費社会の形成とマス・ツーリズム発展過程 ◇技術革新及び地域クラスター間における企業創出と沖縄産業の発展戦略
	情報工学 ソフトウェア工学	教授	鈴木 大作 (SUZUKI, Taisaku) e-mail t.suzuki@meio-u.ac.jp	◇組込みシステム ◇IoTシステム ◇プロジェクトマネジメント
	教育工学	上級准教授	太田 佐栄子 (OHTA, Saeko) e-mail s.ota@meio-u.ac.jp	◇初等中等教育段階における情報教育 ◇地域社会と教育
	ソフトコンピューティング	准教授	島 康貴 (SHIMA, Yasuki) e-mail y.shima@meio-u.ac.jp	◇ビッグデータ解析 ◇予測シミュレーションと可視化処理 ◇機械学習、深層学習、遺伝的アルゴリズム、ニューラルネットワーク
	分子生物学	准教授	水山 克 (MIZUYAMA, Masaru) e-mail m.mizuyama@meio-u.ac.jp	◇環境DNA分析によるサンゴ礁沿岸域の生物多様性と環境要因との関係 ◇沖縄島沿岸に生息する貝類相の変化と人間活動の影響

授業科目の内容

令和 6(2024)年4月現在

※授業科目及び担当教員については変更の可能性があります

科目区分	授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
共通科目	人文科学特論 渡慶次正則・坪井祐司 小嶋洋輔・屋良健一郎 2単位	言語知識や言語習得、発音とアイデンティティ、言語習得と年齢などの学会で注目を集める題目について話し合う。日本史の資料に基づいて、史実を導き出すために議論を行なう。日本近代文学を中心に研究方法や社会制度の変遷から小説を読み解く。欧米社会とは異なるコンテキストを持つ東南アジア地域の地域研究を検討し、議論を行なう。
	社会科学特論 木村堅一 2単位	社会科学の基本理論と方法論を総論的に紹介し、特に社会心理学に焦点を当てて人間関係や社会構造の心理学側面を分析する。そのうえで、理論を現実の社会問題に適用し、解決策を探る実践的な論文を精読する。
	学術研究方法特論 担当教員代表 国際文化研究科長 ※オムニバスで実施 2単位	修士課程における初期段階の研究テーマの設定、参考文献の収集、研究倫理、基本的な研究方法である質的研究方法と量的研究方法、基本的な学術論文作成方法等について学習し、研究デザインを完成させる。

科目区分	授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際文化研究演習 I 嘉納 英明 4単位	①修士論文のテーマを設定し、そのテーマに関係する先行研究（文献）を集め、分析的に読む。 ②研究方法の検討と確定、資料収集を進める。 ③主にディスカッションを通して、論文全体の構想をつくり、修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。
	国際文化研究演習 I 渡慶次 正則 4単位	研究テーマを決定し、実証的データを収集できるようにする。修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。
	国際文化研究演習 I 高嶺 司 4単位	修士論文の作成へ向けた準備段階のセミナーで、修士論文のタイプ、作成目的、研究を進める上での予見できる問題点、主題の選定、研究計画（リサーチ・プロポーザル）、論文の構成、論文の書式などについて、関連文献やディスカッションを用いながら学ぶ。
	国際文化研究演習 I 小番 達 4単位	修士論文のテーマを設定し、これに基づいて作品を考察し、先行研究を体系的、分析的に読み解く。また、ディスカッションを通し、論文執筆へ向けて研究の深化を図る。
	国際文化研究演習 I 小嶋 洋輔 4単位	①学生が目指す研究の全体像を客観化し、その上で修士論文のテーマを設定する。 ②修士論文のテーマに関係する先行研究を集め、分析的に読む。 ③テーマに関係する作家、文学作品を改めて選定、網羅的に読む。関連する理論、関連分野の先行研究についても把握し、網羅的に読む。 ④主にディスカッションを通して、論文全体の構想を作り、修士論文テーマ発表会と1年次終了発表会に備える。
	国際文化研究演習 I 照屋 理 4単位	歴史学の修士論文を書くためには史料の収集・読解は不可欠である。史料を読む力を身につけるために、この演習では、日本史・琉球史の史料の講読を行う。また、先行研究を読むことで、歴史学の論文がどのようなものを理解し、論文の書き方を学ぶ。
	国際文化研究演習 I 坪井 祐司 4単位	修士論文のテーマを決定し、そのテーマに関する文献（先行研究）の収集・読解を通じて研究課題を確定し、その課題を解明するための方法論を検討する。修士論文テーマ発表会および1年次終了発表会での準備を通して、プレゼンテーションの技術を磨く。

科目 区分	授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域 科目	国際文化研究演習Ⅰ 屋良 健一郎 4 単位	歴史学の修士論文を書くためには史料の収集・読解は不可欠である。史料を読む力を身につけるために、この演習では、日本史・琉球史の史料の講読を行う。また、先行研究を読むことで、歴史学の論文がどのようなものかを理解し、論文の書き方を学ぶ。
	国際文化研究演習Ⅰ メーガン クックルマン 4 単位	This course will introduce students to the principles and methods of graduate-level research and writing in English literary studies. Discussions during the first part of the course will focus on instructor-selected texts related loosely to the student's research project. In the second half of the course, discussions will center on student-selected texts directly connected to the student's project. Students will ultimately write a 10-page prospectus
	国際文化研究演習Ⅱ 嘉納 英明 4 単位	言語文化研究演習Ⅰに引き続き、修士論文の作成を指導する。 修士論文中間発表を経て、修士論文を完成させることを最終目的とする。
	国際文化研究演習Ⅱ 渡慶次 正則 4 単位	修士論文のリサーチ・プロポーザルを完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを目的とする。
	国際文化研究演習Ⅱ 高嶺 司 4 単位	修士論文の完成へ向けたセミナーで、社会制度政策研究演習Ⅰで終了した作業を踏まえ、修士論文の総仕上げと校正を行う。
	国際文化研究演習Ⅱ 小番 達 4 単位	論文概要に基づき、中間発表を経て、修士論文の完成まで指導する。
	国際文化研究演習Ⅱ 小嶋 洋輔 4 単位	1年次で行った作業に基づいて、修士論文を完成させることを目的とする。
	国際文化研究演習Ⅱ 照屋 理 4 単位	琉球文化圏（奄美～八重山諸島）における民俗（染織、住環境、食文化等）、文学（伝説、昔話、歌謡、呪文等）、言語（琉球語・方言。特に歌謡語）、芸能（琉球芸能、組踊、沖縄芝居等）事象を対象とした研究指導を行う。
	国際文化研究演習Ⅱ 坪井 祐司 4 単位	修士論文を完成させる。1年次で決定した方針に基づき、調査によるデータ収集および分析を行い、ディスカッションを通じてその結果を客観的な議論として提示する。論文執筆における書式や作法を修得し、調査結果を論文へと仕上げていく。
	国際文化研究演習Ⅱ 屋良 健一郎 4 単位	先行研究の成果と課題を把握し、修士論文で扱うテーマを決定する。修士論文で扱う史料を収集・読解し、論文の執筆を行う。
	国際文化研究演習Ⅱ メーガン クックルマン 4 単位	This course will continue to sharpen the skills of graduate-level research and writing in English literary studies that were introduced in the Seminar I. In addition, the principles of primary text analysis will be introduced and practiced. The theory and secondary research conducted during the 1st semester will be used to better understand the primary texts under examination.
	言語学特論Ⅰ 2 単位	世界最大の英文法書を講読し、英文法体系を概観していく。英語学研究のホットトピックに触れ、諸分野における研究課題と問題点を議論する。
	言語学特論Ⅱ 2 単位	本講義は、音声学の中でも特に調音音声学について学び、実践するものである。ある言語の調査、研究あるいは指導を行う場合、その言語が音声言語であるならば音声学の知識が不可欠である。講義は教科書を用い、各回で指定された範囲を担当受講者がまとめて発表するという形式で進める。受講者自身が、どのように言語音を発しているか、国際音声字母（IPA）のどの音を使用しているか等内省・観察する。日本語・英語を含む世界の様々な言語音について扱う。

科目 区分	授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要	
領域 科目	国際 文化 領域	言語学特論Ⅲ 2 単位	20 世紀から現代に至るまでの言語科学の諸分野を概観し、言語学の主要な研究課題を理解する。文献の読解と批判的検討を通して、認知科学の一領域としての言語学の研究背景と射程を把握し、得られた知見を受講生自身の研究へ活かすための視座を養う。
		英文学特論 2 単位	This course will cover British poetry from Shakespeare to Contemporary. "British" will be loosely interpreted to mean writers within and without the UK proper, including those, such as Ali Cobby Eckerman, who were born in the British Commonwealth and whose lives were radically impacted by the British Empire. The focus of the course will be on the various ways that poetic form frames and creates meaning in poetry.
		米文学特論 2 単位	This course will focus broadly on 20th Century American Modernism, defined very loosely as 1910-1945. Poetry and fiction will be considered alongside theoretical texts from both the early and later century. In addition to the "high" Modernist writing of Eliot, Williams, and Pound, special attention will be paid to the Harlem Renaissance and the avant-garde texts of Gertrude Stein and Djuna Barnes.
		アメリカ詩特論 2 単位	This course will cover two book-length poems from the post-war period of American poetry, broadly referred to as Post-Modernism. The course will introduce students to Post-Modern trends in American literature, focusing specifically on conceptions of subjective experience in poetic texts and how the poetic "I" is formed through language.
		アメリカ小説特論 2 単位	This course will explore in detail both the conventions and experimentations in English fiction writing. The course will focus on two pieces of American fiction: the novel Their Eyes Were Watching God (Zora Neale Hurston, 1937) and the short story collection Woman Hollering Creek (Sandra Cisneros, 1991). Specifically, the course will focus on the construction of female subjectivity in traditionally marginalized and borderlands communities within American culture. It will also address the fictional modes of the novel and the short story and consider the ways in which each mode impacts the subject matter of the text.
		地域言語学特論 2 単位	本講義は、南琉球宮古語伊良部島方言の記述文法書を読み、①記述言語学とはどのような研究分野か、②琉球諸語の特徴、あるいは琉球諸語の 1 方言としての伊良部島方言の特徴は何か、③1 言語の文法書とはどのように書かれているか学ぶものである。講義は教科書を用い、各回で指定された範囲を担当受講者がまとめて発表するという形式で進める。受講者自身は、伊良部島方言にどのような言語現象が見られるか、母語を含み知っている言語に類似する現象はあるか等内省や先行研究にあたり考察し、その現象が世界の言語の中でどのような位置づけなのかを学ぶ。
		英語教授法特論 I 2 単位	英語教授法に関わる分野についての知識と理解を深め、特に英語を母語としない学習者を対象とした英語教授法に焦点を当てる。 第二言語教育や外国語教育の歴史を振り返る中で、時代を代表する教授法について、及び教授法の発展について学び、今日、幅広く受け入れられている教授法などについて理解を深める。同時に、英語の 4 技能を向上させるための過去、現在の教授法について、さらに評価法、教材、授業方法、シラバスなど具体的項目について学習する機会とする。教材は英語で書かれた教材を利用し、授業は殆ど英語で行われる。
		英語教授法特論 II 2 単位	英語教授法に関わる分野についての知識と理解を深め、特に英語を母語としない学習者を対象とした英語教授法に焦点をあてる。 第二言語教育や外国語教育の歴史を振り返るなかで、時代を代表する教授法について、及び教授法の発展について学び、今日幅広く受け入れられている教授法について理解を深める。また、同時に英語の 4 技能を向上させるための過去、現在の教授法について、さらに評価法や教材、授業方法、シラバスなど具体的項目について学習する。教材は英語で書かれた教材を使用し、授業は殆ど英語で行われる。

科目区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際文化領域	英語教育評価特論 2単位	4技能の評価方法を中心に、評価の妥当性や信頼性、実用性を話し合う。教室や教室外における現在の評価の問題（issues）を取り上げる。
		リサーチ方法特論 2単位	社会科学や人文科学における質的研究と量的研究の基礎的な知識と技能を身に付け、リサーチプロポーザル完成の支援をするリサーチの概論コース。修士論文の構成や論文作成上の留意点を話し合う。
		第2言語習得特論 2単位	過去の研究成果から次の点を学ぶ。 (1) 第2言語がどのような過程で習得され、どんな種類のインプットやインタラクションが習得につながるのか (2) 社会的な要因と第2言語習得についての研究成果を学ぶ。 (3) 第2言語習得の個人差はどのようにして生じるか。
		教育学特論Ⅰ 2単位	①戦後日本の教育学研究の知見の習得の作業を行い、基礎的な知識を学ぶ。 ②論文作成の基礎技能である、先行研究や一次資料を活用したテキストの作成、読みを 図る。
		教育学特論Ⅱ 2単位	戦後日本の教育学研究の基礎的な文献を分析的に読み進めながら、特に、「問題・論争」となった点について受講生の「発表」を行ってもらい、それをもとに討議を行う。占領下の沖縄の教育（制度）問題も視野に入れる。
		東南アジア文化特論 2単位	人文・社会科学の研究の方法論の多くは、欧米社会の分析を前提に発展してきたものである。一方で、アジアには寒帯から熱帯までさまざまな地域があり、社会のあり方は必ずしも一様ではない。授業では、アジアで唯一の熱帯地域である東南アジアの社会をさまざまな角度から検討することで、既存の学問の方法論そのものについて再検討する。テキストの論文集からいくつかの論文を選んでテーマを設定し、それをもとに議論を行う。
		中南米文化特論 2単位	ラテンアメリカは、日本から地理的に最も遠いという理由で馴染みの浅い地域でありました。しかし、世界的に見た場合そのプレゼンスは大きいものです。たとえば経済の規模は東アジアに匹敵しますし、混血社会は対立をはらみながらも人間社会の一つのあるべき姿を代表としています。今日の民族的、宗教的な地域紛争の解決のモデル地域になる可能性を含んでいるかも知れません。また、ラテンアメリカは数多くの独創性に富んだ思想、文学、芸術を生む舞台でもあります。政治、経済、社会研究においても多くの優れた成果を生み出してきました。つまり、我々はラテンアメリカから多くのことを学びえるのです。
		日本古典文学特論 2単位	本講義では『平家物語』の成立をめぐる問題を考える。作品の成立を考えるには、いわゆる5W1Hの各要素が対象となるが、ここでは異本文の創作・編集動機（なぜ）、そして成立過程（どのように）の要素を基軸に考えてゆく。『平家物語』をはじめとする軍記文学にあつては、膨大な異本（諸本）を有することがその特徴の一つになっている。それらの異本を総体的に捉えることは難しいため、一異本をキーテキストとして考察対象に定め、そのテキストをめぐる、先行する『平家物語』の他の異本文や他の軍記文学本文、さらに外部文献—先行する文学作品、歴史資料（記録・史書等）、思想関連資料（経典・寺社縁起等）等々の直接的あるいは間接的な受容の様態を具体的に解き明かしてゆく。 なお、本講義は、受講生の調査報告に基づき、ディスカッションを繰り返しながら進めてゆく。

科目区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際文化領域	日本近代文学特論 2 単位	日本近現代文学、とくに第二次世界大戦後の文学における「代表作」（本講義では短篇＝芥川賞受賞作中心）を取り上げ、その「研究方法」について学ぶ。とくに、作品が生成された背景を知る「方法」及び、作品の一文字一文字を読む「方法」を知る。小説作品とは書かれた同時代社会の問題が色濃く表れているものであり、社会制度の変遷を小説から読み解くこともその目的とする。具体的には、扱う作品に対して「発表」を行ってもらい、それをもとにして討議を行うものである。
		日本史特論 2 単位	この講義では前近代の琉球の歴史を、史料を読み解きながら学んでいく。特に日本との外交や文化交流に関わる史料を読むことで、琉球と日本・薩摩との関係がどのような歴史をたどったのかを考察することとする。琉球の歴史を知る上で重要な薩摩の歴史についても積極的に扱う。
		沖縄地域文化研究特論 2 単位	本演習は、琉球・沖縄における言語・民俗・文化のさまざまな表象について、琉球文化圏において成立した文献（歴史文書や歌謡等）を通して論じる。 対面では、毎回アクションペーパーを提出させる。
		異文化接触特論 2 単位	構造主義の観点から、「他者」について概観し、異質なものとの接触により起きる文化変容と受講生の日常と「異化」について講義する。また、「他者との接触」を通して人起こりうる化学反応について、沖縄の問題と絡めて考察する。
		琉球歴史学特論 2 単位	この講義では前近代の琉球の歴史を、史料を読み解きながら学んでいく。特に日本との外交や文化交流に関わる史料を読むことで、琉球と日本・薩摩との関係がどのような歴史をたどったのかを考察することとする。琉球の歴史を知る上で重要な薩摩の歴史についても積極的に扱う。
		琉球文学特論 2 単位	本講義は、琉球・沖縄における言語・民俗・文化に基づく芸文表現について、呪詞や歌謡を通して論じる。 対面では、毎回アクションペーパーを提出させる。
		国際政治特論 I 2 単位	過去 30 年間、政治経済から文化や科学や環境に至るあらゆる領域において、グローバル化と称される「地球規模のスケールをともなった相互接続」が顕著となってきた。本講義では、グローバル化(Globalization)をキーワードに国際政治経済の動向と問題点を深く考察する。具体的には、地域統合、国際貿易と金融、安全保障、民主化と人権、貧困と開発、環境問題、NGO 運動、情報通信革命、テロリズム、捕鯨問題、文明の衝突といった問題に焦点をあてながら現代の国際情勢を解説する。
		国際政治特論 II 2 単位	21 世紀の時代を生きる私たちは、次から次へと発生する国際問題についてどのように理解し、また、どのように対処すべきなのか。こうした問いを念頭に、本特論では、私たちが現在の国際問題を理解するための有効な手段としての「国際政治理論」、及び、そうした問題にどのように対処し、平和で繁栄しかつ住みやすい国際社会を実現するための政策を作る上で重要な「国際政治の分析アプローチ」を、下記講義テーマごとに詳しく解説する。
		国際関係特論 I 2 単位	本講義では 21 世紀初頭の急速な経済成長を背景に、国際社会における存在感を増しているインド太平洋諸国（日本、中国、台湾、南北朝鮮、インド、オーストラリア、ニュージーランド、ASEAN 諸国、南太平洋島嶼国など）の国際関係を考察する。インド太平洋地域の複雑でダイナミックな国際関係を、政治外交、経済協力、民主化、社会変動、領有権争い、安全保障といった多角的な視点より考察し、21 世紀の地球社会におけるアジア太平洋地域の役割と可能性及びその限界を展望する。
国際関係特論 II 2 単位	本講義の前提科目である国際関係特論 I での事例研究で得られた知見をもとに、インド太平洋地域の国際関係における課題、争点、ダイナミズムを国際関係理論の枠組みを用いながら考察し、現状の問題点の把握と近い将来の展望を提示する。さらに現在の国際政治学会における有力な理論、方法、見解、実証例などを詳しく紹介し、この地域が抱える国際問題や紛争の解決に向けた政策提言を行える能力を養成する。		

科目区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際文化領域	東アジア地域特論 2 単位	本講義は東アジア地域の政治・社会について、特に戦後から近年までの当該地域における国民国家形成と政治変容をとり上げ、政権党の政治的イデオロギーが教育政策や言語政策を含む広義の意味での文化政策にどのように反映されてきたのか—国家・政治・文化の不可分の関係性—に焦点を当てて検討してみたい。本講義では、主に中華圏の社会とする東アジア地域とするが、中国大陆だけではなく、台湾や香港といった“周縁”的な地域を沖縄との比較の視座において検討することで、周辺からの地域研究とその手法について考える糸口としたい。
		国際文化特別講義 2 単位	国際文化領域が提供する授業科目以外で、等領域に該当または類似する科目を特別講義として開講する。

科目区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際観光産業領域	国際観光産業研究演習 I 新垣 裕治 4 単位	本演習は、主に自然環境の保全と活用に焦点を当て地域の抱える課題等をテーマとし、様々な現状の分析や課題・問題を解決するための調査研究を行う。演習 I では、先行研究や現地視察等を通し、課題の把握とテーマの設定を行う。
		国際観光産業研究演習 I 大谷 健太郎 4 単位	本演習のテーマは「地域における望ましい観光のあり方」であり、地域振興やまちづくりの中で観光を位置づけ、政策立案ができる能力を身に付ける。そのためには、観光学はもちろん、基本的な経済学の知識が必要であり、統計分析ができる能力や政策科学の学習も必要である。さらに、問題を細微にわたって分析できることと、常に広い視野を持ってポイントを押さえることも要求される。 したがって、本演習では、理論と実践の意味連関を重視し、可能な限りフィールドワークによって実践力を身に付け、単なるレポートや論文でない、「生きた」方策が論理的に組み上げられるように訓練する。また、論文の基本的なルールからはじまり、構成や引用、先行研究のまとめ方など修士論文に必要な基礎力もあわせて指導する。
		国際観光産業研究演習 I 木村 堅一 4 単位	本演習は、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。
		国際観光産業研究演習 I 金城 亮 4 単位	本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。修士論文執筆に備えて関連研究等の幅広いリサーチを行い、理論的枠組みの強化をはかる。同時に、修士論文研究に使用する妥当性・信頼性の高い調査尺度や実験課題等の収集／開発を行うために、予備的なデータ収集を実施する。さらに、種々の統計分析手法に関する理解を深めることを目的とする。
		国際観光産業研究演習 I 仲尾次 洋子 4 単位	本演習では、会計分野（財務会計や国際会計）における文献研究を行うとともに、修士論文の作成方法を修得する。
		国際観光産業研究演習 I 中里 収 4 単位	本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといったコミュニケーションに関する現象を扱う。 前半は主に文献研究や発表練習を行う。 後半はシステム設計、プログラミング技法、システム評価などについて演習する。
		国際観光産業研究演習 I 林 優子 4 単位	本演習は、経営戦略分野の研究を行う。修士論文の作成にむけて、演習 I では、先行・文献研究を進め、研究課題・目的の明確化を目指す。
		国際観光産業研究演習 I 宮平 栄治 4 単位	国際観光産業研究演習 I では、修士号学位請求論文に必要なテーマ選定、研究方法、参考文献収集の仕方、批判的読解および発表の方法を学ぶ。

科目区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際観光産業領域	国際観光産業研究演習Ⅱ 新垣 裕治 4 単位	国際観光産業研究演習Ⅰで行ってきた内容を充実発展させ修士論文としてまとめることを目的として行われる。
		国際観光産業研究演習Ⅱ 大谷 健太郎 4 単位	国際観光産業研究演習Ⅰに引き続き、同様のテーマで修士論文を執筆する。演習Ⅰで得た内容を発展させ修士論文にまとめ上げることを最終的な目標とする。 また、修士論文の途中経過をまとめ、学会発表などに投稿する論文の指導も併せて行い、論文に必要な基礎力もあわせて指導する。
		国際観光産業研究演習Ⅱ 木村 堅一 4 単位	本演習は、国際観光産業研究演習Ⅰ（木村担当）に引き続き、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数値化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。
		国際観光産業研究演習Ⅱ 金城 亮 4 単位	本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。当分野の研究演習Ⅰを履修済みであることを前提としている。本演習では研究演習Ⅰにおいて設定したテーマと予備分析に基づき、実証科学的アプローチによってデータを収集・分析し、修士論文にまとめることを課題とする。また、研究成果について少なくとも3回の報告発表（テーマ発表・中間発表・最終発表）を義務づける。
		国際観光産業研究演習Ⅱ 仲尾次 洋子 4 単位	本演習では、研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みをベースに修士論文を作成する。
		国際観光産業研究演習Ⅱ 中里 収 4 単位	本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといった、コミュニケーションに関する現象を扱う。コミュニケーションシステムの開発を題材にして、研究方法や論文執筆の手順を習得する。前半はシステム設計、システム評価実験などの演習を行い、後半は修士論文の執筆法を演習する。
		国際観光産業研究演習Ⅱ 林 優子 4 単位	本演習は、経営戦略分野の研究を行う。演習Ⅱでは、先行研究を踏まえて、研究課題や研究目的を明確化し、修士論文の完成に取り組む。
		経営情報研究演習Ⅱ 宮平 栄治 4 単位	研究演習Ⅱでは研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みから修士論文テーマに関する論文を作成する。修士論文の作成に当たって常に理論的枠組みのどの部分を体系立てているのかという全体と部分を意識し、また、現実との比較を通して、理論の限界を認識するとともに、理論化できない諸現象へのアプローチ方法も学ぶ。
		観光開発特論 2 単位	観光開発は、地域振興を目的とした観光政策であるので、本講義では公共の利益を重視した公共政策的アプローチを採用する。したがって、観光開発の目的を社会的厚生を最大化とし、観光開発が経済社会や環境、文化に与える影響をはじめとする開発と地域との関係に重点を置き、望ましい開発の理念と手法の説明を中心として講義を進める。本講義では、まず、国内的・国際的に汎用性のある観光開発の概念や仕組みを総論的に学ぶ。その後、方法論として観光開発の計画評価に必要な社会的費用便益分析や多基準分析、地域計画実践の際の需要予測手法や多変量解析手法などについての考え方を説明し、具体的事例を用いながら評価方法の技術的側面の理解をめざす。
		観光政策特論 2 単位	近年、観光立国推進基本法をもとにインバウンド・ツーリズムの推進や地域振興などをキーワードにして新たな観光立国推進基本計画が施行された。観光による地域振興の目的は、国および地域の魅力増大によって来訪者が増加し、観光の地域経済的および社会的効果を最大化することであり、その効果を予測および検証する政策評価の過程などが重要である。本講義では、第一に国内外における観光政策立案方法と事例を概観する。その後、政策立案に関わる事前評価および政策実行の効果に関わる事後評価の政策マネジメントサイクルを理解し、観光による地域振興を目的とした観光政策の評価手法の講義を行う。

科目区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際観光産業領域	観光文化特論 2単位	本講義では、観光という人間行為の本質的なトピックを文化と関連づける研究成果に学びながら、前半では、観光と文化に関する理論的枠組みのディスカッションを中心に、後半では、世界の地域別事例研究から観光と文化の有機的動態を読み取っていくものである。
		観光資源特論 2単位	観光資源には自然景観などの自然資源と文化的・社会的資源の人文資源に大別できる。本講義は主として後者に「文化」の視点からスポットを当てる。有形・無形観光資源の歴史の変遷とそれを取り巻く社会変化を連動させながら、世界各地の事例から観光資源への人類学的意味づけを行なうものである。
		観光市場分析特論 2単位	本講義では、観光市場分析のために必要な基礎理論として、行動科学や経営学等のマーケティング基礎知識と市場分析の諸方法を理解し、観光・ホスピタリティ産業やリゾートなどの市場分析へ応用するための方法を学ぶ。日本における国内観光と海外観光に関する観光市場の現状と動向、観光産業と観光関連産業や観光地などの動向等、観光統計データに解説を加えながら、その分析手法について理解する。
		ホテル経営特論 2単位	沖縄の観光業の発展と、その中核であるホテル業がどのように変化し発展してきたかを学びながら、グローバルな視点から、優位性、問題点を大学院生と論じていきたい。 その中で、ホテル業のマネジメントスキル、オペレーションスキルを講義していきたい。
		島嶼文化特論 2単位	日本の周辺に位置する沖縄県のような島嶼社会の場合、中央に対する求心力と「外」に対する遠心力の両方の力が作用している。島嶼社会は規範文化から「周辺の位置」に在るだけでなく、市場経済においても中央の支配を受けやすい。沖縄のような島嶼群からなる社会が持つローカリティー性について学習し、どういふ開発の仕方が望ましいのか考察していく。
		エコツーリズム特論 2単位	エコツーリズムとは、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り、学び、自然・文化の保護・保全と地域振に貢献する観光形態」と理解される。エコツーリズムは従来の観光の反省に立って考えられた観光の一形態であり、これまでの観光のイメージを大きく変える可能性を持っている。 本講義では、エコツーリズムの概念、ツアー事例、エコツーリズム資源と構成要素等を通してエコツーリズムへの現状についての理解を深め、これを基にエコツーリズムの課題について考察していく。
		観光社会学特論 2単位	観光は社会における一つの事象であることから、観光を理解するためには社会学のアプローチが必須となる。観光という事象を取り巻く経済、文化、政治、環境、労働、そして地域と産業、メディアなどの関係性を解説しながら、観光を通した現代社会の特徴や問題点などを論じる。
		観光環境特論 2単位	優れた自然環境や特徴的な環境は、重要な観光資源・観光対象となり得る。こうした環境を対象とする観光は、人間の環境に対する解釈や価値観が表象される行為である。観光の場に表れる環境に関する我々の態度と観光対象としての環境の価値について理解することは、新たな観光形態の開拓に加え、オーバーツーリズムや観光開発による環境問題等について考察する際にも必須となる。本科目は、環境の中での人間の存在の特性を参照しながら、観光の場に表れる人間と環境との関係について解説する。

科目区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際観光産業領域	地域開発政策特論 2 単位	<p>経済のグローバル化、高度情報化（IT 革命）の急速な進展に伴って地域の経済環境は大きく変化しており、従来の中央集権的タテワリ行政システムの中で地域の開発政策を考えるのは困難である。</p> <p>本講義においてはこうした状況を踏まえ、経済的自立の条件とは何か、産業集積のメカニズムとは、競争優位を創出するためには何が必要か等、地域の視点（「地方の時代」）から経済の発展について考えていく。後半は実際に沖縄振興開発計画等にふれつつ、開発政策が沖縄の経済的自立にどう影響しているかについて考察していく。</p>
		地方自治特論 2 単位	<p>本講義では、地方政府とも言われる地方公共団体について、「地方自治特論」という講義名称のもとで、日本国憲法による地方自治の保障の意義、自治体の仕事（これは一般に「事務」といわれる）とこれを行う組織の仕組みや特徴、自治体の仕事の中でも特に重要な役割をもっている条例制定の問題、自治体における住民の地位や権利の種類や内容について、それぞれの制度趣旨・制度内容を明らかにするという観点から、講述していきたい。これらのことを学ぶことを通じて、地方の政治・行政への理解を一層深めることができるようにしたい。</p>
		経済政策特論 2 単位	<p>経済政策は、他の経済学分野と違い、極めて現実的課題を扱う。例えば、自然災害に対する対応から少子高齢化への対応のような課題である。また、証拠に基づく政策策定(Evidence Based Policy Making)では、政策の定量的評価が求められる。例えば、成長力向上策では、税金や人的資源などの Input が成長力を向上させたのか(Output)だけでなく、人びとの幸福を高められたか(Outcome)で評価される。データ収集の特徴としては自然科学においては実験等を通じてデータを収集し、再生可能な情報を、他の社会科学においてはアンケート等を通じてデータを収集し、再生の可能性が高い情報を得、理論構築と展開を行うが、経済政策では実験を行い、失敗をする事はできない。この点を踏まえ、この講義では、経済政策の決定に関する諸課題を扱い、日本と欧米の経済政策の違い等を学ぶ。</p>
		国際経済特論 2 単位	<p>この授業は、国際経済の基本概念について学ぶことを目的としています。テーマは大別して、国際貿易に関するものと国際金融及び外国為替に関するものに分かれます。授業ではこれらについて幅広く包括的に学習することになります。なお、この講義を受講することにより、受講者が国際経済に関する新聞やニュース記事等の内容が以前よりも容易に理解できるようになることが期待されます。なお、以下のシラバスの内容は完全なものではなく、授業の進展度や学生の理解度に応じて若干の変更もありえることに留意してください。</p>
		産業政策特論 2 単位	<p>後発国が産業を生成・発展させ先進国に追いつくためには、市場の失敗等により、市場メカニズムを利用するだけでは難しいことが東アジアの経験より明らかになっています。この講義では、日本を始めとする東アジア各国が先進国へ移行する過程で採用してきた産業政策や先進国でも行われている産業政策について勉強していく予定です。また「沖縄振興体制」下の政府からの補助金の仕組みや制度の役割等についても触れていきます。</p>

科目 区分	授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域 科目	経営戦略特論 2 単位	この講義では、基本的な経営戦略に関する理論を体系的に理解することを目的として進めていく。企業を取り巻く環境は常に変化し続けているため、その中での採るべき戦略も変化・進化をしていると考えられる。そこで基本的な論点を踏まえながら、企業競争や企業革新を遂げていくための戦略とはどのようなものかを研究していく。
	比較経営学特論 2 単位	経営学は企業の戦略・組織・行動を分析する際に、企業の経済的合理性すなわち企業の目的は利潤の追求であるという「資本の理論」を軸に分析してきた。たとえば、R. H. コースは「企業と市場」論において企業は取引費用を節約するために市場でなされていた取引を組織化したと述べた。また、O. E. ウイリアムは階層的組織の優位性が市場メカニズムより優れている点を挙げ、A. D. チャンドラーは近代大企業の成立と発展において内部組織が市場メカニズムより優れていることを歴史的分析によって明らかにした。しかし、比較制度分析の視点に立てば、アングロ・アメリカン・モデルが唯一無二の最適組織とは言えない。経済システムには多様性があり、歴史的経路と社会の制度体系に依存することは明らかである。 本講義では企業・市場（経済システム）・社会システムという総合的視点と比較経営学的視点に立ち、各国の企業組織について考察していく。
	産業組織心理学特論 2 単位	本講義では産業・組織的場面における人間行動について、個人的及び環境的要因の観点から検討する。職業適性、働くことへの動機づけ、消費者意思決定、組織運営に関わるリーダーシップ等の課題についてグループ・ダイナミクス研究の知見を交えつつ考察していく。
	会計学特論 2 単位	企業活動や投資活動のグローバル化に伴い、企業の業績を国際的に比較可能にするためのグローバルスタンダードとして IFRS（国際財務報告基準）の導入が必要とされている。本講義では、IFRS を念頭に置きながら、英文財務諸表の読み方について学び、財務諸表分析のケーススタディを行う。
	マーケティング特論 2 単位	本講義の目的は、地域・都市の再生や地域におけるビジネス・イノベーション、SDGs など近年の地域の事例を取り上げ、「地域創生」という地域に新しい価値を生み出す仕組みをマーケティングの視点から考えていきます。学生皆さんと共に「マーケティング」という学問から「地域創生」について考えていく講義を行います。
	経営活動情報特論 2 単位	情報化社会における企業経営のかかえる課題と解決策を考察する。毎回ある課題をとりあげ、その課題に関する資料を講読してまとめを発表し、意見交換する形式および最近のトピックの中から選定した題材を調べ、発表し意見交換する。 本講義は経営情報システムの仕事に携わった経験を活かして、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。 また、ICT を活用して講義や学生への連絡を行う。 本講義は、対面演習を基本とするが、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン講義とのハイブリッド型で実施する。
	e-ビジネス特論 2 単位	インターネットをインフラとしたビジネスが一般化してきており、ビジネスの形態が変わってきた。本講義では、インターネットビジネスの基礎からオンライン・ビジネスへの参入方法、Webマーケティング、e-ビジネス、e-コマースの背景にあるテクノロジー等を学ぶと共に、インターネットにおけるビジネスモデルについて考察していく。 本講義は情報システムの仕事に携わった経験を活かして、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。 また、ICT を活用して講義や学生への連絡を行う。 対面演習を基本とするが、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン講義とのハイブリッド型で実施する。

科目区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際観光産業領域	情報交流特論 2 単位	<p>本講では、人間同士の音声対話および人とコンピュータとの音声対話について研究する。</p> <p>前半は文献購読を中心に、対話に関する理論やコンピュータでデータを処理する方法を学習する。</p> <p>後半は、分析のテーマを設定し、実際に対話データを収集・分析してみる。</p> <p>人が対話している場面で、音声情報や視覚情報がどのように利用されているかを研究する。</p>
		情報知能特論 2 単位	<p>計算機による知識情報処理の基本的考え方、方法論、応用、更にその論文等の読みとまとめについて学ぶ。</p>
		情報・通信技術特論 2 単位	<p>近年、インターネットの普及によりネットワークサービスの重要性は益々高まる一方である。本講義では、IoT システムに関する情報・通信技術の基礎的な知識を学ぶと共に、IoT 接続により実現される様々なサービスについてその概要や実現するための要素技術について学ぶ。また、IoT システムの構築を実施するうえで必要となる Linux コマンドの使用方法などについても演習を交えながら学ぶ。本講義では、必要に応じてグループワーク等を含むアクティブラーニングを活用し実施する。</p>
		国際観光産業特別講義 2 単位	<p>国際観光産業領域が提供する授業科目以外で、当領域に該当又は類似する科目を特別講義として開講する。</p>

令和 7(2025)年度 名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）
学生募集要項

<発行>

令和 6(2024)年 7 月 31 日

名桜大学教務部入試・広報課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1

TEL 0980-51-1056 FAX 0980-54-2429
